



やってほしいコスプレがある？

うわあーこれは結構際どい…  
でも生地はすごいしっかりしてる。  
肌に吸い付くような質感…

…うん、まあほかでもない先生の頼みだし。  
ところで何のキャラクターなの？  
見たことないけど



袋の中？  
ああ、ゲームなんだ。

え？ここでは見ないほうがいい？

よくわからないけど、わかった。  
帰ってから見ることにする。

へえ、シリーズものなんだ。  
ならちよっと時間貰っていい？  
やるなら中途半端は嫌だし、  
しっかり予習しておきたいんだ。

じゃあ、借りてくね。

先生

ごめんね先生。一室借りちゃって。できるだけコンパクトにしたつもりだけど…  
違うよ、業務用ゴミ箱じゃないよ。

うーん、見てもらったほうがわかりやすいかな

えっと、作品的にやっぱりこういうのも必要かなって

生物的なものはさすがに専門外だったから  
私なりの解釈を元に作ってみたんだ。

電力とかは大丈夫。見た目ほどじゃないし、ここなら問題なく動かせるよ。

それじゃあ簡単に説明していくね。

突貫で作ったし…：…なにより部費を使うわけにはいかなかったから  
デザイン性は犠牲にして、その分機能を充実させたんだ。

内部は球体構造で全方位回転機構つき。

拘束姿勢の変更も容易で身体に負担のない拘束が可能だよ。  
身体データの感知や自動給餌機能もあるから長時間の使用にも問題なし。

そして何より様々なアタッチメント付きの機械触手を多数内蔵。  
身体データを読み取ってうまく使い分けてくれるよ。

身体に無害な媚毒ガスの噴出機能や自動洗浄機能も搭載してるけど、  
もちろん完全密閉だから外に漏れるようなことはないから安心して。

あとは――

――ヒビキ

何か気になる点でもあった？  
自分で使うのに、そんなにいろんな機能をつけたんだ。

――だってコスプレに合わせた装置を作ったんでしょ？  
――なら当然その人が使用することを想定しているんだよね？

あつ…

(い、言われてみればその通りだけど…ううなんかすごい恥ずかしくなってきた)

い、いやまあ作ってみたくなっただけだから、  
何も私じゃなくてもいいんだよ。先生の好きなように使ってもらって…  
――テストはしたの？

――じゃあ試してみないとね。他の子を実験台にするわけにはいかないし  
あ、安全性は保障するよ？

でもそれじゃあ完成品とは言えないよね？未成品を提供しちゃって、いいの？  
……。

…自分で捕まる形になるのはすごいアレだけど  
確かに未成品のままなのはマイスターとしてのプライドが許さない  
とはいえこれはさすがにちよつと恥ずかしいかな…



「先生、装着具合を確認するだけだからね？  
ほかの機能はちゃんと安全性が確認された仕組みを流用しただけだから」

—わかってるよ。性能の確認は大事だからね

これ一回つけたら自分じゃ外せないんだよね  
まあ、そのちのほうに役に入り込めるといえばそうだけど…

この状況はさすがに想定外。いや、むしろ想像通りなのかな…？

先生に言われるまで思い至らなかつたけど経緯的にどう考えても  
自分に使用するために作ったようなものだし…

だとしたらちよつと…ううん、かなり冷静じゃなかつたみたい。

ドキ

ドキ



「そう、その端末が本体左端のモニターのどちらかで色々操作できるよ。  
直感的にわかる仕様にしたつもりだから」

「なるほど。こうかな？」

ポチ。

「せ、先生？」

「うん？」

「ほかのテストはしなくていいんだよ……？」

「確かにヒビキが作ったものだから大丈夫だとは思うけど、  
それでもやっぱり一通り試さないといけないと思うんだ。」

「さっきのはどうやら隔壁の起動ボタンだったようだ。こっちは何だろう？」

ポチ、ポチ、ポチ、ポチ、

「まっ、そんなに適当に押しちゃったら、

あっ、動き出したっ

「せ、先生、本体側面に緊急停止ボタンがあるからそれを」



がちゅん。

しん。

しん

——ものすごい静穏性だ。

機械自体の駆動音はもとよりシヤッターを閉じてしまえば中の様子も一切伝わってこない。まさに完全防音。

この——業務用ゴミ箱みたいなモノの中にヒビキが入ってるなんて誰も気づかないだろう。

さすがはエンジニア部のマイスターといったところか！

うん、これなら仕事にも集中できるだろうし……。

ヒビキのコスプレ姿も無事拝むこともできたし……。

このままでいいかな。

どうしよう、本当に抜け出せそうにない…

先生が持つてる端末からなら簡単にロック解除もできるんだけど…

…そのつもりはないみたい。

…まずはどの機能が作動したか確認しないと。

今わかってるのは隔壁の閉鎖と簡易拘束の追加機能。

先生がボタンを押した回数的にあと二つは作動してるはず…

…自動選択モードになってないといけい。

カリッ

フフフ…

カリッ

これは…レーザーカッター機能。  
肌を傷つけることなく衣服だけを焼き切ることができる。  
これが作動したってことは――

——「この目は胸部刺激機能のこと。  
うっ、吸引機の圧力設定高くしすぎた。  
ち、乳首が干切れそうなほどに引っ張られる……」

ドキ……

ドキ……

トッ

カッ

チュ——

——っ！  
局部用神経刺激薬の注入が始まった。  
さすがに原作ほどの感度倍増効果はないけれど、濃度次第ではかなりきついはず。

……じんじんしてきた。  
吸引は止まっているし、カップの中なのにほんの少しの空気の流れが  
鮮明に刺激として伝わっている……

投与しただけでこれなのに、この後は——

ブラキのっ回転がっ……

これ、刺激が強すぎて、痛いっ。  
ううん、痛いのに……痛気持ちいい？

こういつの、本当に気持ちいいのか疑問だったけど、さすがに。  
刺激薬の効果もあるんだらうけど、自分の身体とは思えなげくらう。

うあっ

速度が上がった！

このままだと私の乳首、研磨されるっ……



あつ、またレーザー機能が…

薬の効果は胸だけのはずなのに、レーザーの衝撃と服が切れていく感覚がお腹に響いてるみたいでじくじくする…

…二つ目はバンプ機能。できれば作動してほしくなかったけど、止める術がないのがこんなにもどかしいなんて。これで、残りはあと一つだけど、耐えられる気がしない…



.....  
この形…大きさ…初期設定じゃない。  
ということは、自動選択モードが作動している…  
しかも多分耐久難度最高レベル…

.....  
これは、相当まずいことになったかも

トキ  
トキ…

トキ  
トキ

カッ  
カッ

カッ  
カッ

ピ  
トッ

カッ  
カッ  
カッ



——っっっこれっ！想定外っ！人に使ったらいけないっ！！

薬がどうのとかじゃないっ、純粋に刺激が強すぎるっ！

こんなの役になりきる余裕なんて全然ない。  
このままじゃ自分で作った先品に壊されるっ。

…いや、ある意味この状況こそもっとも原作を忠実に再現しているのかも？

一切の容赦のない暴力的な快楽に晒されて、  
それに負けないように抗って脱出する機会を模索する…  
それでも次第に屈服していつてしまう…

まるで私も本物の対魔忍になったかのような臨場感を味わっている…っ？

っ！！

…でもやっぱり無理っ！！



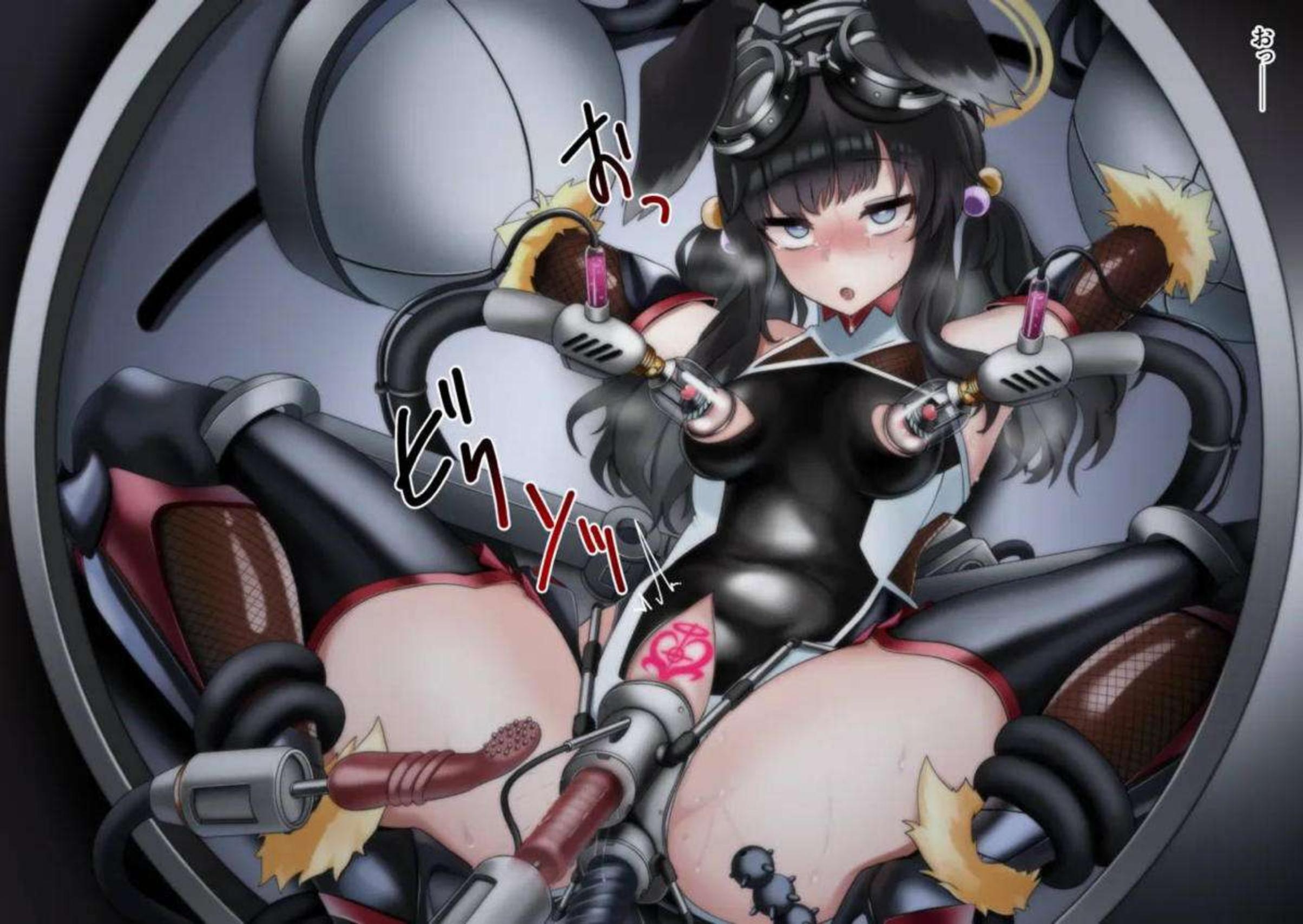
あつ嘘っダメダメダメっ。  
それは快楽神経を直に狂わせて、  
しかも一度刻まれたら絶対に消すことができないっ

んっ、お腹がピリピリして、

あつあつあつもう効果がっ

乳首とあそこの快感がさっきまでの比じゃないくらいに——





おっ

ん  
ん

お終わった。終わった。終わった。

これもうずっとこのまま…

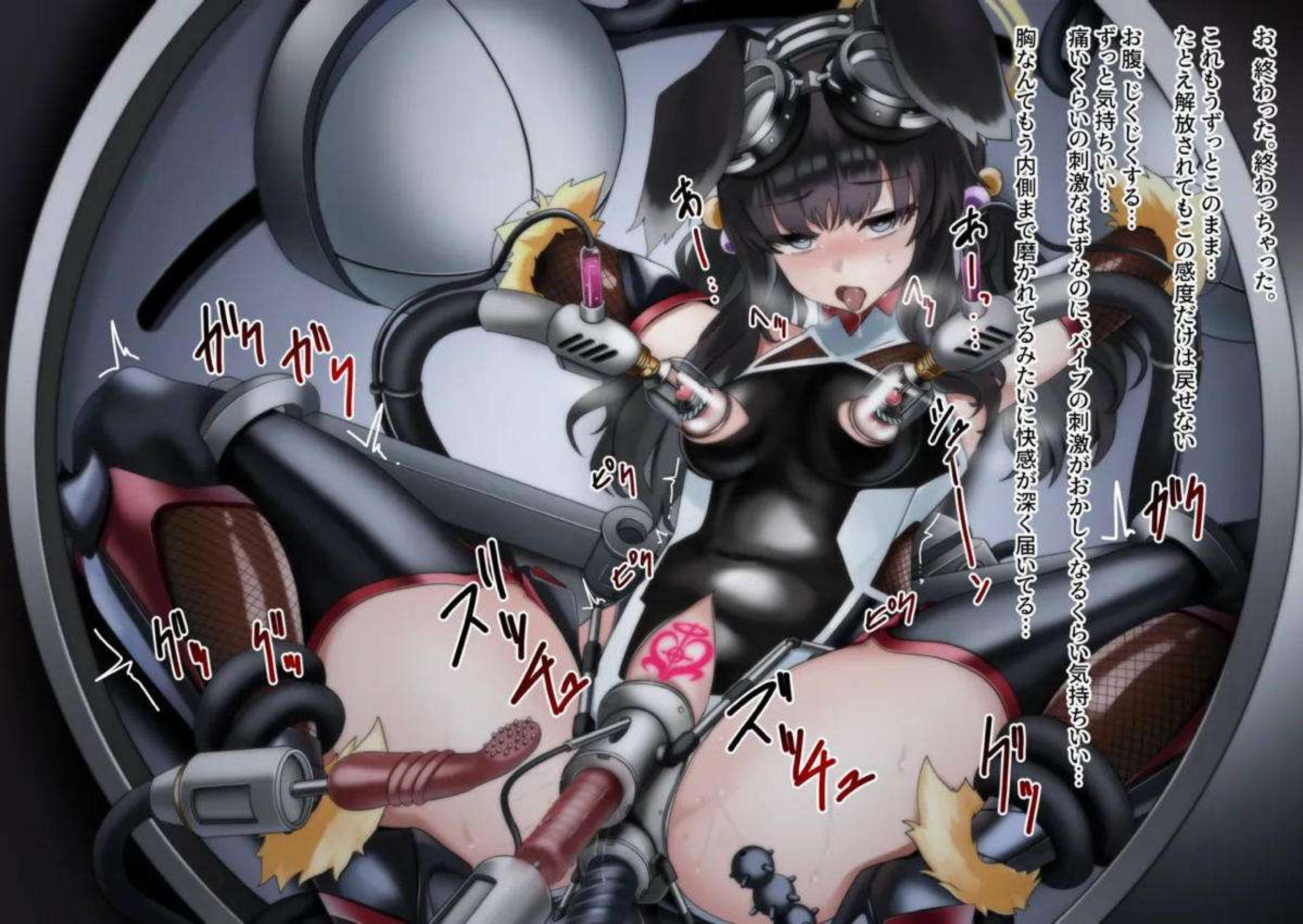
たとえ解放されてもこの感度だけは戻せない

お腹、じくじくする…

ずつと気持ちいい…

痛いぐらいの刺激なはずなのに、パイプの刺激がおかしくなるくらい気持ちいい…

胸なんてもう内側まで磨かれてるみたいに快感が深く届いてる…



すごいものを作っちゃった…  
快楽の性質と暴力性を全然理解できてなかった…

ワイクションだと思って、設定を強くしすぎたみたい…  
次は、もっと…



。。。あれ先生本当に解放する気がないみたい。

端末からなら全部見えてるはずなのに。  
給餌機能まで動き出したから、最低でも今日はずっとこのまま……

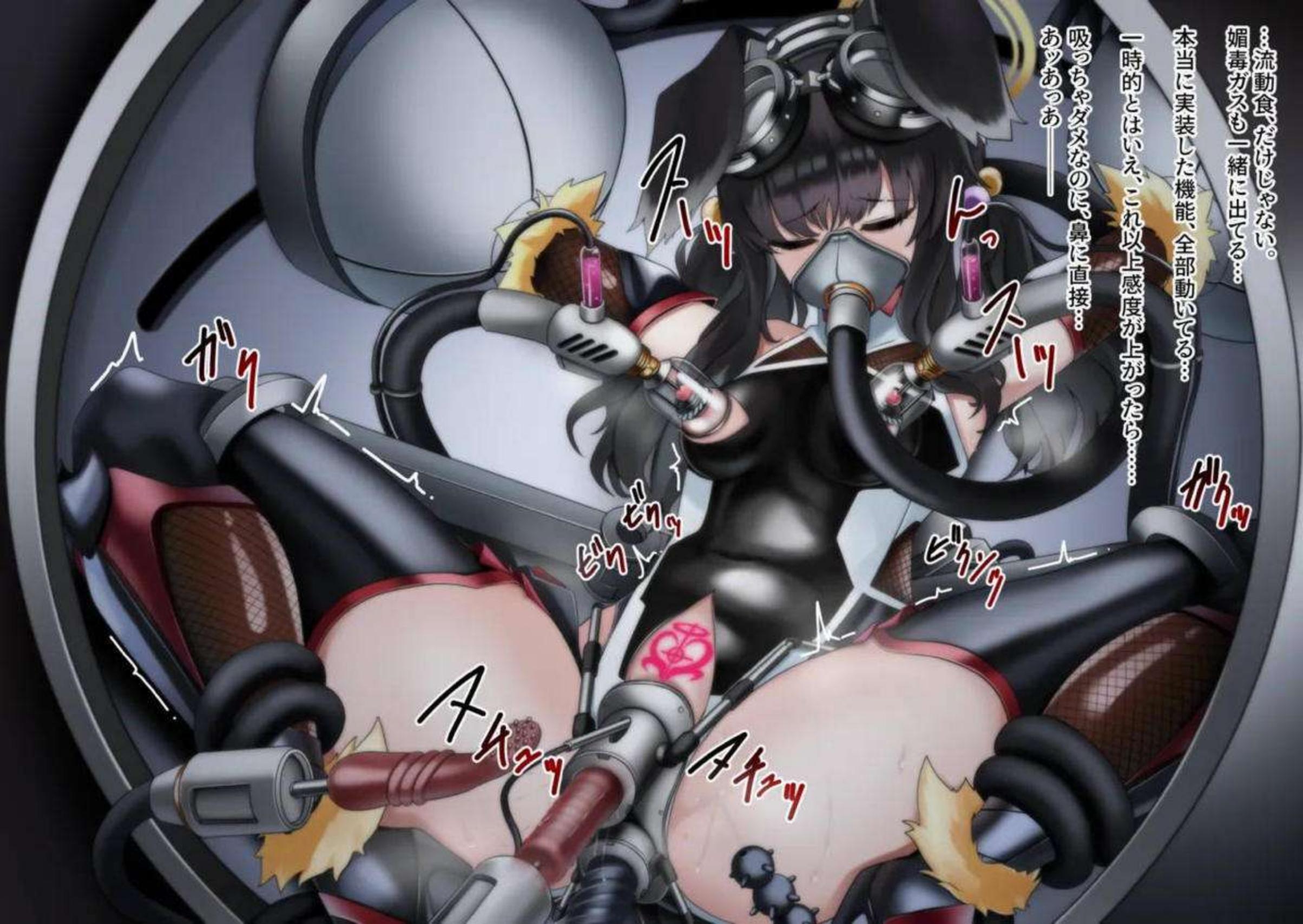


…流動食、だけじゃない。  
媚毒ガスも一緒に出てる…

本当に実装した機能、全部動いてる…

一時的とはいえ、これ以上感度が上がったなら…

吸っちゃダメなのに、鼻に直接…  
あッあッあ



先生——

もう全部試したのに——

いつまでこのまま——



ビーン／＼

フーン

フーン

ビーン  
ビーン

ビーン／＼

ビーン

フーン

フーン

ドク...

フク...

—先生、気に入ってくれたかな？

—やっぱり先生といると私に足りない部分、わからない部分を教えてもらえる…

—次は先生の意見も取り入れて…

—もっと気持ちよくなれるものを…

